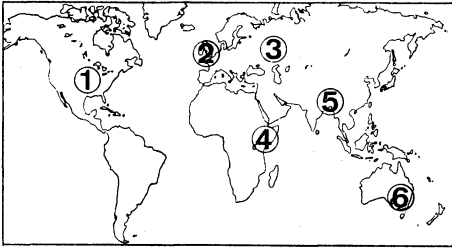


世界の異常天候とその影響評価 (8)

(Climate Impact Assessment, June 1984)



1. 合衆国中西部——大雨・洪水

合衆国中西部では6月中に200~300mmの大雨が降り、広い範囲で洪水が発生した。サウスダコタ、アイオワ、ミズーリ、ネブラスカの各州では特に被害が大きかった。試算によれば農作物の被害は7億ドルを越えるという。

2. イングランド・アイルランド——干天

干天のため農作物は悪影響を受けている。また河川や貯水池の水位も低下している。ある地域では6月8日までの4週間には雨量計に記録されるような雨は降らなかった。6月の第2週には前線が接近し、救いもたらされた。

3. ソ連——干ばつ解消

ボルガ河流域では6月の降水量が平年の150~200%であったため、干ばつから救われた。この地方の農作物の被害は、雨に恵まれた他の地域の好条件によってある程度まで補償された。

4. ケニア・ソマリア——干ばつ

ソマリアとケニアでは異常な少雨状況が続いており、干ばつのため農作物の予想生産高は急激に低下した。ナイロビでは、1月1日以来の総降水量は100mm(平年の19%)にも達していない。この期間にこれほど雨が少なかったのは少なくとも1940年以後なかったことである。この干ばつのために野生動物や家畜が死につつあると伝えられている。

5. インド・バングラデシュ——大雨・洪水

インドのウェストベンガル州ではモンスーンの大雨によって300万人以上の人々が家を捨てて避難したと伝えられている。インドのアッサム州でも30万人が洪水の影響を受けた。バングラデシュでは5月以降の洪水によって少なくとも86人が死亡し、3千万人が影響を受けた。バングラデシュでは350万エーカーの土地が冠水したため、1億ドルを越える農産物の被害が生じた。

6. オーストラリア——干ばつ

6月中続いた干ばつのため小麦が被害を受けた。7月に入ってからは救いの雨が降った。南西部の内陸の農地では6月の降水量は平年の三分の一以下であった。このため、米国農務省(USDA)は小麦の生産高の予想を11%引き下げて1,500万トンと評価した(7月1日の評価)。

(注：上記各項目の番号は図中の番号に対応している)
(気象庁気候変動対策室 真野裕三)